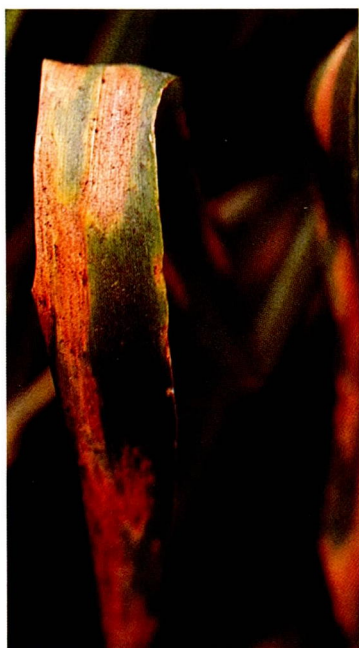


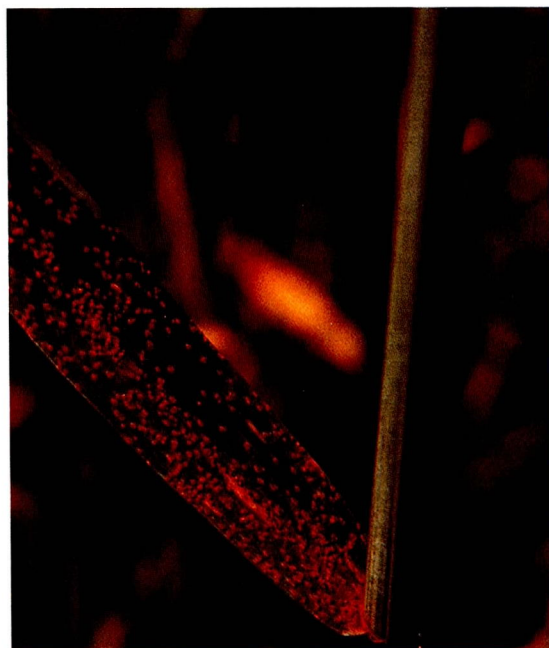
# ライムギの主要病害の診断と防除のポイント

雪印種苗(株)千葉研究農場<西原>



斑点病

*Bipolaris sorokiniana*



赤さび病

*Puccinia recondita*



うどんこ病

*Erysiphe graminis*  
f-sp. *secalis*

## 斑点病

出穂ごろ最も蔓延し、葉に斑点を生じて、早期枯死をひき起こす。葉の病斑は所を決めず現われ、初め鉛色を帯びた褐色の小斑点であるが、広がると共に淡褐色となり、長径2-3cmの紡錘形ないし楕円形病斑となる。縁は不鮮明で、その外側は黄化する。多湿時には病斑面にねずみ色のかびがうすく生える。本病は種子から伝染することが多く、秋播きのものでは年内から葉に淡褐色、楕円形病斑を生じ、これが春の発生源となる。前年の被害茎葉もまた重要な伝染源である。

## 赤さび病

ライムギの出穂期ごろから発生し、生育末期にかけて蔓延する。葉の両面に黄褐色の小点が所を決めず現われ、次第にふくれ、終には表皮が裂けて、中から鉄さび状の粉(夏胞子)が飛散する。多湿と多肥は本病の発生を多くする。とくに実採り栽培に被害が大きい。

## うどんこ病

出穂期ごろから目につく病気で、葉に白いうどん粉をふりかけたようになる。この粉は実は、本病を起こすかびの胞子で、これが風で運ばれて広がる。この病気にかかっても葉はすぐには枯れず、緑色を保っているが、葉の飼料価値は見かけ以上に低下するといわれるので軽視できない。栽培に当っては、風通しをよくする心がけが最も大切で、そのためには厚播きや早播きをなるべく避け、肥料は適量をしかもバランスよく施すことが大切である。

## 紅色雪腐病

長い根雪が融けて、雪の下から現われたライムギが水浸状になって腐り、それが乾くと桃色を帯びた灰褐色に変わる。これが紅色雪腐病である。本病は他のムギ類やイネ科牧草を同様に侵すが、その中でもライムギはこの病気に最も弱く、全滅することさえある。とくに本病は雪深い山間の傾斜地や排水の良い火山灰土、砂地に多発する。また肥料切れの株で被害が大きく現われる。病菌は畑土の中で生き残るほか、種子についての病菌からも伝染する。



紅色雪腐病

*Fusarium nivale* f-sp. *graminicola*